

## 「土木コレクション（通称：ドボコレ）」を支援して

シビルNPO 連携プラットフォーム常務理事 土木学会連携部門担当  
土木学会 教育企画・人材育成委員会 シビルNPO 推進小委員会 委員長  
メトロ設計(株) 技術顧問  
**田中 努**



「土木コレクション」については、CNCP 通信の Vol.60 と 67 に書きましたが、先月の 11/14 (木) ~17 (日) の 8~21 時に、新宿駅西口広場イベントコーナーで開催されました。昨年まで、広場を東京都の建設局と半々で使用しましたが、今年は、全域、土木学会の「土木コレクション」でした。

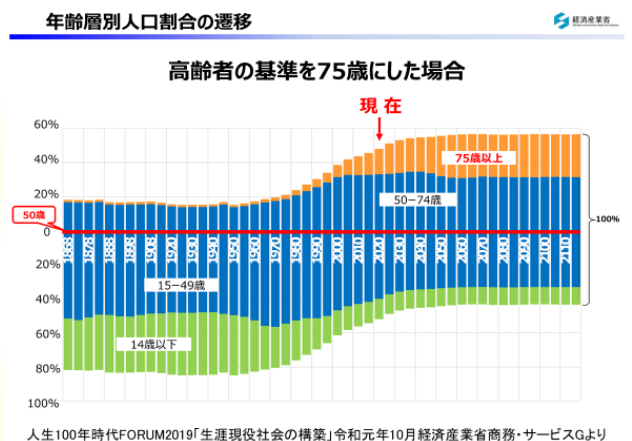
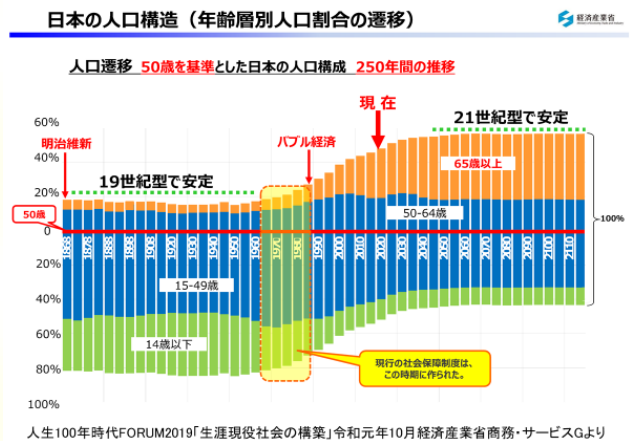
今年のテーマは「過去から未来、新しい TOKYO へ」で、TOKYO を躍動させる高速道路や鉄道等の貴重な「建設映像」や「図面」など約 150 点を一般公開し、「土木カフェ」では 8 題のミニ講演が行われました。4 日間の来場者数は約 35,000 人。親子連れ・学生・現役世代・シニアの方など様々で、女性も結構多かったのが印象的でした。

「ドボコレ」支援報告の前に、1つ。



### ■高齢社会での生き方

下の図は、皆さん、見覚えがあると思います。今年の 6 月 10 日の第 4 回 CNCP サロンで、東京大学高齢社会総合研究機構副機構長の牧野篤教授の講演の中で出てきた図です。



この図は、明治から 2110 年までの人口構造の遷移図で、少子高齢化が急激に進む様子が分かる図です。

上の図は、青の現役労働者が減少し、オレンジの働かない高齢者が増え、大変な社会になって行くぞ！という図。

下の図は「高齢者とは 65 歳でなく 75 歳以上」と定義して、75 歳まで現役だと考えた時の図。現時点では別世界ですが、社会環境の変化に応じて新しいビジネスモデル・生活モデル・人生モデルを考えよう！という意味ではこれまで経験してきたことと同じですね。そして、平均寿命 100 歳の人たちが、75 歳まで健康で働けるようになれば、労働人口の比率は、なんと、バブルの頃と同じなんです！

そういうことなら、今でも、シニアは、自分の子供たち世代の現役労働者を、可能な範囲で、支援してあげるべきでは？・・と思います。支援するなら、1 人でもいいですが、NPO や学会で仲間が集まれば、質的・量的にパワーUP し、受ける側にも有効な支援になります。

その例が、この「ドボコレ」への支援です。

### ■ 「ドボコレ」への支援

冒頭で話したように、今年は広場全域に展開し、昨年人気のあった「TOKYO オリンピック」だったため、「土木」の分かる説明員を必要とし、CNCP に支援を依頼されました。

CNCP では、会員に呼びかけましたが残念ながら反応がなく、首都高の OB 会（21 名）と JR 東の OB 会（6 名）と私の母校の都立大と前職の会社と土木学会の委員会の仲間（7 名）が支援してくれました。

説明支援の人たちは、左のタグをぶら下げ、サポートが必要な来場者に様々な対応をしていただき、土木学会の「土木広センター長」からお礼状を頂きました。



「ドボコレ」は、来場者の対象を土木マニアから子供までとし、ガチャや缶バッジも用意しています。「土木カフェ」では、土木・建築分野の先生・行政職員・ジャーナリストなど、様々な方をお呼びし、4/8 題は 2 人での掛け合いトークで、休日は人集りが出来ていました。床に貼られた TOKYO 航空写真も人気でした。私の自宅と実家、通った小・中・高校、大学・職場が、全部、写っていました（笑）。



「ドボコレ」入り口



土木カフェ



土木カフェ

